日本共産党
すみだ区議団ニュース
第516号
発　行　日本共産党墨田区議会議員団
発行責任者・はら つとむ／編集責任者・としま剛
発 行 所　墨田区吾妻橋1-23-20 ☎直通5608-6326
墨田区役所16階 日本共産党区議会控室

橋梁の架け替え、非正規雇用の待遇改善、ヤングケアラー、不登校対策、生理の貧困問題など 決算特別委員会で区民要求の実現に全力

日本共産党墨田区議団

2020年度の墨田区一般会計と、3つの特別会計（国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療）の決算を審査する決算特別委員会が、10月19日から11月8日までの日程で開かれました。

日本共産党墨田区議団からは、山下ひろみ区議が副委員長に、はらつとむ区議、としま剛区議が委員となり、区政の問題点を指摘するとともに、切実な要求の実現に向けて論戦しました。

竪川にかかる橋の架け替えを

竪川には墨田区に面して、12本の橋が架かっています。決算では、千歳橋の補修工事の設計費が盛り込まれていますが、橋の架け替え計画はありません。

はら区議は「橋の長寿命化は重要だが、竪川の橋はほとんどがアーチ状になっている。急勾配のため自転車は押して渡っている」「現在の技法では10センチ程度高さを低くすることもできるとされており、架け替えも計画してほしい」と要望しました。

所管部長は、「すべての架け替えはできないが、今後、架け替えも検討していく」と答弁しました。

会計年度任用職員の待遇改善を

非正規雇用の待遇改善や、正規雇用化が大きな社会問題になっています。

公務員では、従来の非正規雇用や非常勤職員が、会計年度任用職員（一年ごとの非正規雇用）に改まりました。非正規雇用であっても、できるだけ正規に近い賃金や休暇に近づけていくことが必要ですが、非常勤職員と違い更新の回数が連続4回（一部は7回）など、改善が求められています。

委員会で発言する、はらつとむ区議

はら区議は、「世田谷区、文京区、板橋区では上限回数を定めていない。本区としても上限は撤廃し、雇用の不安定化を防ぐために再検討すべき」と質問。

担当課長は、「国は一年ごとの更新と決めており、都内では世田谷区、文京区、板橋区に是正を求めている」と答弁しました。

中等度難聴児への補聴器購入助成は拡充を

委員会で発言する、としま剛区議

補聴器には、イアモールドという付属品があり、これが耳の内側に密着しないと正常に機能しません。中等度難聴児の子どもは、イアモールドを成長に合わせ年に1度程度の買い替えが必要です。**としま区議**は「補聴器が正常に機能しないと授業が聞き取れないだけでなく、子どもの言葉の発達にも影響する。必要な付属品の費用は、区で補助してはどうか」と提案。**障害者福祉課長**は「付属品のサイズが合わない場合の子どもへの影響は理解した。区としても前向きに対応したい」と答弁がありました。

ヤングケアラー対策は、なによりも実態調査が重要

通学や仕事をしながら障害や病気のある親などの家族介護や世話をしている18歳未満の子ども、いわゆるヤングケアラーが社会問題になっています。

国も専門家もヤングケアラー問題解決には実態調査が出発点だと強調していますが、区は調査に背を向けてきました。

としま区議は、「区は調査をしない理由に『ヤングケアラーに対する認識不足でアンケート結果の信憑性に課題がある』と言うが、啓発とあわせ、アンケートの取り方に工夫さえすれば対応できる。まだ把握されていないヤングケアラーが、学びの機会を失ったり、進路を断念することが決してないよう実態調査を実施すべき」と主張しました。

不登校対策　スモールステップルームは全校に配備を

学校へ行っても教室で授業を受けられない子どもたちのために設置したスモールステップルーム（SSルーム）が成果を上げています。

としま区議は「不登校の児童、生徒が増加している。一方で現在SSルームが設置されている学校は2校のみ。教員と連携し現場対応で重要な役割を果たしているスクールソーシャルワーカー（SSW）は区内にわずか3名。ともに拡充が必要」と主張。**教育委員会指導室長**は「SSルームは段階的に増やしたい。また、SSWの人員体制も拡充できるよう検討したい」と前向きな答弁をしました。

全ての学童クラブのネット環境を改善へ 子どもたちの勉強できる居場所の確保を

「学童でタブレットでの宿題をさせたいがネット環境が悪くできない。学童のネット環境を何とかしてほしい」と保護者から声が寄せられました。

山下区議は、「全ての学童クラブのネット環境を早急に整備すべき」と要求。**子ども施設課長**は、「11月に入り整備する。年内には完了を目指したい」と答弁しました。

また、**山下区議**は、多くの児童館をはじめとして、子どもたちが「安心・安全で学習のできる場所を整備すべき」と主張。

教育長は「様々な場所で子どもの居場所を検討し、整備していく」と答弁しました。

学校トイレの生理用品の配備は予算化を

委員会で発言する、山下ひろみ区議

山下区議は「コロナ危機のなか、『生理の貧困』が社会問題になっている。区は防災備蓄品や地域団体からの寄贈品を活用し、生理用品を学校トイレに設置してきたが、今後もこれを継続し、必要な予算措置を講じるべき」と要求。

教育委員会学務課長は、「補給のため、財政当局と相談していく」と答弁しました。

視点

▼11月2日、イギリスで開催された国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP26）において、気候行動ネットワークは、日本政府に対して、「化石賞」を贈りました。「化石賞」とは、気候変動に前向きな姿勢を示さない国に、皮肉を込めて贈られる賞です▼①石炭火力発電を使い続けるという姿勢をとっている、②技術的に未確立のアンモニアと水素を使った火力発電を「ゼロエミッション火力」として妄信している……この二つが授賞理由となりました。これらは、日本共産党が「気候危機打開の2030戦略」で批判した日本政府の対応の致命的な弱点です▼日本共産党は、2030年度までの削減目標を先進国並みに50％から60％に引き上げること（現在の目標は2010年度比で42％減）、そのために省エネと再生エネルギーの普及を提案しています。省エネも再エネも大きな可能性を秘めており、現実的な目標です▼いまこそ、温室効果ガスの排出量を減らしながら発展する経済社会への本格的な転換が求められています。

大災害ともいえるコロナ危機のもと、暮らしや営業をまもる支援は不十分
決算の認定に反対＝としま剛区議が意見

決算特別委員会で意見を述べる、としま区議

決算特別委員会の最終日、各会派が2020年度墨田区決算に対する意見を述べ、採決が行われました。日本共産党のとしま剛区議は、「コロナ危機のもとで、暮らしや営業を守る施策は不十分であり、逆に基金が増えていることは問題。」と決算の認定に反対しました。

各党の態度は、自民、公明をはじめ、日本共産党以外全ての会派が認定に賛成しました。

墨田区は財政の効率化優先で指定管理者制度・民営化を進めてきたが、命を守るケアに手厚い区政へと転換を図るべき。

財政効率化重視や自己責任論から抜け出し、区は公的責任を果たすべき

区は、原則として現金給付型施策は実施しないとし、コロナ危機のもとでも、区民や区内事業者を支援する現金給付型施策をかたくなに拒否してきた。

わが党は、区民の暮らしや営業を守るためには、国や東京都の対策の隙間を埋める自治体の支援策が必要であり、現金給付型施策などを実施すべきと繰り返し求めてきた。

また、大災害ともいえるコロナ危機のもとでは、積み立ててきた基金を積極的に活用することを求めてきたが、暮らしや営業を守る支援策を十分に行わず、逆に基金が増えていることは問題。

今こそ、新自由主義的な政策からの転換を図り、区民ひとり一人の命と健康、暮らしや営業をなによりも大切にすることが必要。区政運営の基本姿勢を見直すことを強く求める。

コロナ感染「第6波」に備えて十分な体制を

感染者数が減少している今こそ、大規模なPCR検査等を実施して、無症状の感染者をいち早く見つけ出し、隔離・保護することで、感染の鎖を断ち切ることが求められる。

「第6波」に備えて、相談や積極的疫学調査などの保健所の体制強化、検査や診療体制の強化、十分な病床の確保、自宅療養者が出た場合の万全な支援、年末年始の特別な対策など、この間の教訓を踏まえた取り組みが求められる。

ワクチンの安全・迅速な接種を引き続き進め、3回目の接種に備えた万全な準備を求める。

そして、コロナの影響で困難に直面している全ての中小、小規模事業者に対して十分な支援や補償を行うことを強く求める。

新自由主義的な政策は改め、命を守るケアに手厚い区政へ転換を

区が自前でPCR検査を行える体制をつくり、積極的疫学調査に努めてきたこと。コロナ患者の診療や入院体制の整備、ワクチンの迅速な接種を進めてきたことなどは大いに評価する。

一方で、「自己責任」を押し付ける新自由主義的な政策が区政の場でも強められてきた。区がPCR検査を自前で行えたのは、検査をしたことがある職員がいたことと、PCR検査の機材が残っていたから。区は行財政改革として「保健所の検査業務の外部委託」を進めてきたが、検査業務は自前で行うようにし、保健所機能の拡充を図るべき。

健康づくりについても、この間、自己責任が強調されてきたが、PCR検査について、「いつでも、だれでも、無料で」検査を受けられるようにしてほしいという願いに背をむけているのも、その根底に「自己責任論」があるからではないか。

墨田区議会11月議会 11/29~12/13
日本共産党の代表質問に としま剛区議、一般質問にあさの清美区議

あさの清美 区議

としま剛 区議

墨田区議会11月議会が、11月29日から12月13日までの日程でひらかれます。日本共産党区議団は、としま剛区議を代表質問に、あさの清美区議を一般質問に立て、来年度の予算編成の基本的な考えた方や、新自由主義的な政策から転換し、区民ひとり一人の命と暮らし、営業をなによりも大切にする区政への転換を求めて全力をつくします。

11月29日(月)	本会議(代表質問)
30日(火)	本会議(一般質問)
12月 1日(水)	本会議(一般質問)
3日(金)	子ども文教委員会
6日(月)	地域産業都市委員会
7日(火)	区民福祉委員会
8日(水)	企画総務委員会
13日(月)	本会議(討論・採決)

本会議、委員会の開会時間は13時です。

区政への要望が次々と
党区議団が区政懇談会開く

日本共産党区議団は10月8日、すみだ女性センターで区政懇談会を開きました。

高柳東彦区議団長と、はらつとむ幹事長が決算特別委員会に提出された資料を使って、今の区政の動向や区民の生活実態を報告しました。

あいさつをする高柳東彦区議団長

参加された方々から、「ある銭湯の番台で、ニコニコ入浴デーの客は、客ではない。と話しているのを聞いた。利用者も事業者も気持ちよく使える制度にしてほしい」、「保育園の民営化、基準園化の凍結について、方針転換をした理由は」、「墨田区は、児童相談所の設置を見送ったとの報道がある。どうなっているのか」、「隅田公園の再整備について、園内には震災の仮埋葬地もあるが影響はないのか」、「生理用品を学校のトイレに置いてほしい。東京都が予算を付けたようだが、何か話は聞いているか」、「国保、介護、後期医療保険の余剰金があるなら保険料を安くしてほしい」、「高齢者の一人暮らしが増えている。今後どういう支援が求められるのか」、「生活困窮者には、支援をしてほしい。10万円の再支給を」、「江東5区の水害対策の現状は」、「ヤングケアラーの実態調査をしてほしい」などのご意見、ご要望が寄せられました。

医療と健康 シリーズ
すみだ共立診療所 吉沢先生にきく
前立腺ガンの男性

先日、緩和ケア病院で75歳の男性が亡くなった。さぞ無念の思いであったと思う。3年前に診療所の外来に頚が痛くて受診。整形でガンの骨転移と判明し、大学病院で放射線治療をうけた。この時に、前立腺ガンと判明した。ホルモン療法を継続しても、一年後には悪化して、新しいホルモン治療を行った。この治療は男性ホルモンを抑えていても、ガンが進行してしまう時に使う。

今年の夏、往診になった。背中が痛く、肝臓、全身のリンパ節、腰椎などへの転移、全体的に病状は進行し、本人の希望で退院となった患者でした。

初めて往診に行ってみると、本人はベッドに座っていて、顔色は悪かったが、しっかりと話はできた。家族は途方に暮れていた。後で訪問看護師に聞くと、本人は家族3人（妻と子供2人）に受け入れ拒絶状態でした。また、妻や子供は、介護を拒否して、全部、看護師にまかせ、そのうちに看護師の出入りも拒否する事もあった。患者本人は弱い立場で、家にいたいがいられない。家族の態度に相当のストレスがあった。

最後まで家族と話し合って、入院の決定を私達は待った。家族はひどい父親であったという。本人は10年以上、息子と会っていない。「それがつらい」と言った。経済的に恵まれている家庭である。私は両者の要求に、どうこたえるか難しかったが、家族の決定を待って病院に紹介状を書いた。

一週間後に亡くなった。